

(追加調査)

福岡市外国籍市民アンケート 報告書

(福岡市滞在期間5年未満の外国籍市民に関する分析)

福岡市

I. 調査概要

1. 調査目的

この調査は、福岡市外国籍市民の日常生活の実態、生活環境への評価などを洗いだすとともに、現行の福岡市における在住外国人施策の効果検証と、今後の戦略的な施策展開に活用するための基礎資料を得ることを目的としている。

2. 調査内容

1. 回答者の属性について・・・・・・・・・・・・・・・・ P 2
2. 日本語・英語能力について・・・・・・・・・・・・・・・・ P 5
3. 福岡市に関することについて・・・・・・・・・・・・・・・・ P 8

3. 調査対象，調査方法，調査期間及び回収結果

令和元年度に実施した福岡市外国籍市民アンケート調査(※)で得られた回答 513 件のうち、福岡市での滞在期間 5 年未満の回答 368 件を分析。

※令和元年度福岡市外国籍市民アンケート調査

・調査対象と標本の抽出方法

福岡市住民基本台帳に登録のある外国籍市民で、18 歳以上（平成 31 年 4 月 1 日時点）で、在留資格が「特別永住者」、「永住者」及び「短期滞在」を除く、2,000 人を無作為に抽出。

・調査方法：調査票の配布，回収ともに郵送による。

なお、調査票は日本語版と外国語版（英語，中国語，韓国語，ベトナム語，ネパール語のいずれか 1 つ）を送付し、どちらかに記入してもらう形式をとった。

・調査期間：令和元年 5 月 21 日（火）～6 月 6 日（木）

・調査主体：福岡市総務企画局国際部国際政策課

4. 利用上の注意

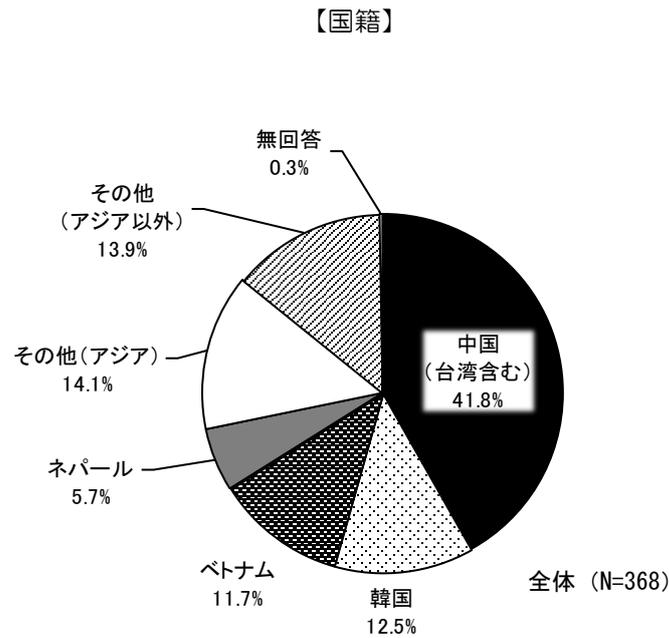
- ①数字は、百分比の小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、回答比率の合計は必ずしも 100% にならないことがある。
- ②2 つ以上の回答（複数回答）がある質問の場合、その回答比率の合計は、原則として 100% を超える。
- ③数表や図表に示す N は、比率算出上の標本数を示している。
- ④文中の選択肢は「 」で表記し、選択肢のうち 2 つ以上のものを合計して表す場合は『 』とした。
- ⑤国籍については、法務省出入国管理統計による。
（国籍区分の「その他（アジア）」及び「その他（アジア以外）」についても、法務省出入国管理統計に従っている）
- ⑥在留資格については、出入国管理及び難民認定法別表第一及び第二による。
- ⑦本調査における「就労」の在留資格区分は、教授，芸術，宗教，報道，高度専門職，経営・管理，法律・会計業務，医療，研究，教育，技術・人文知識・国際業務，企業内転勤，介護，興行，技能を含んでいる。
- ⑧過去に実施した調査（H23 年度以前）は、現住所での滞在期間 5 年未満の外国人を抽出した結果、福岡市での滞在期間が通算で 5 年以上の回答者が含まれている。そのため、本報告書で記載している過去の調査との比較は参考となる。

Ⅱ. 調査結果

1. 回答者の属性について

(1) 国籍【Q1】

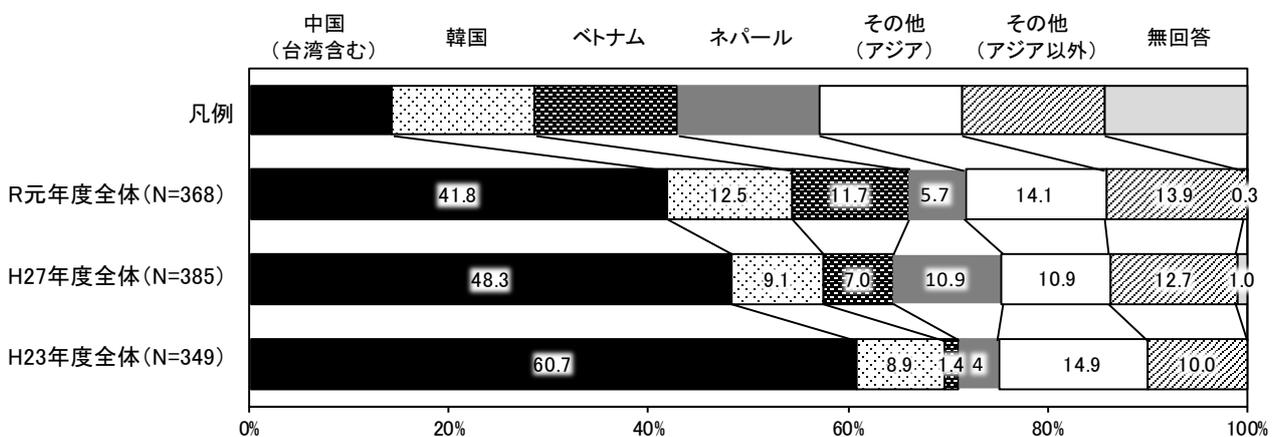
調査回答者の国籍をみると、「中国（台湾含む）」(41.8%) が最も多く、以下、「韓国」(12.5%)、「ベトナム」(11.7%)「ネパール」(5.7%)、の順となっており、『アジア全体』では8割(85.9%)を超えている。



近年、中国（台湾含む）の占める割合が減少し、ベトナム、ネパール国籍が増加している。

【国籍（時系列）】

※過去調査との比較は参考（P1，4.⑧参照）

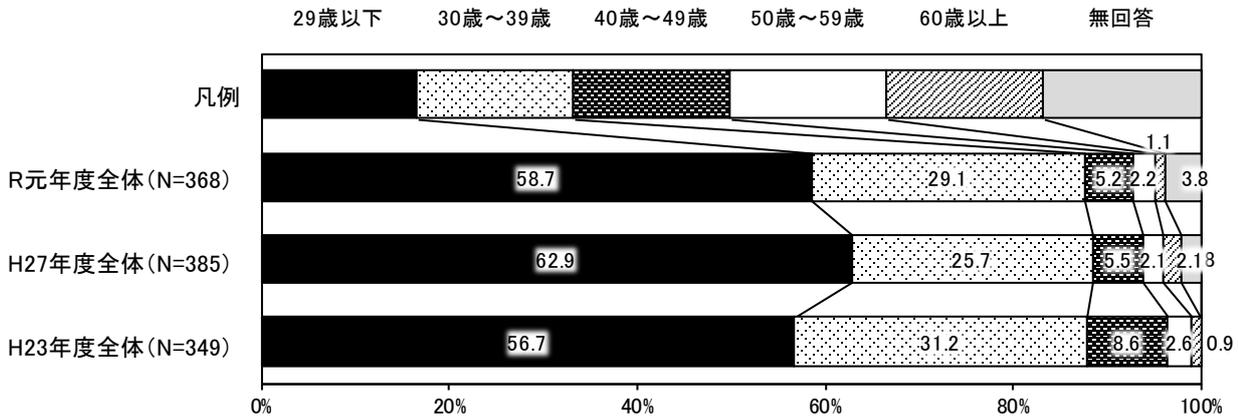


(2) 年齢【Q2】

調査回答者の年齢をみると、「29歳以下」(58.7%)が過半数を占め、以下、「30～39歳」(29.1%)、「40～49歳」(5.2%)、「50～59歳」(2.2%)、「60歳以上」(1.1%)と続いている。

【年齢(時系列)】

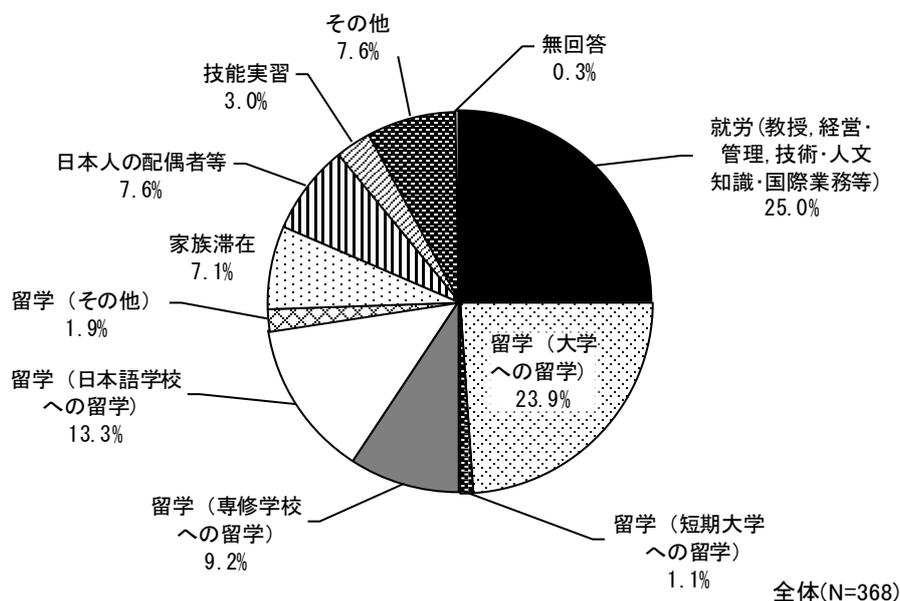
※過去調査との比較は参考(P1, 4.⑧参照)



(3) 在留資格【Q3】

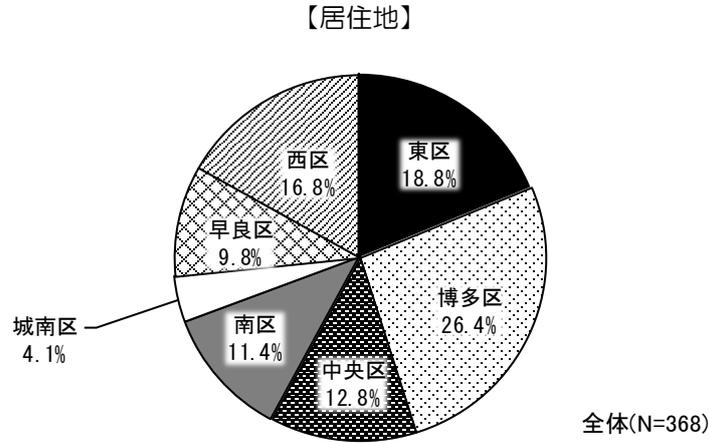
調査回答者の在留資格をみると、「就労(教授, 経営・管理, 技術・人文知識・国際業務等)」(25.0%)が最も多く、「留学(大学への留学)」(23.9%)、「留学(短期大学への留学)」(1.1%)、「留学(専修学校への留学)」(9.2%)、「留学(日本語学校への留学)」(13.3%)及び「留学(その他)」(1.9%)を合わせた『留学』では49.5%を占める。また、「日本人の配偶者等」(7.6%)、「家族滞在」(7.1%)が続いている。

【在留資格】



(4) 居住区【Q4】

調査回答者の居住地をみると、「博多区」が26.4%で最も多く、以下、「東区」(18.8%)、「西区」(16.8%)、「中央区」(12.8%)「南区」(11.4%)、と続いている。

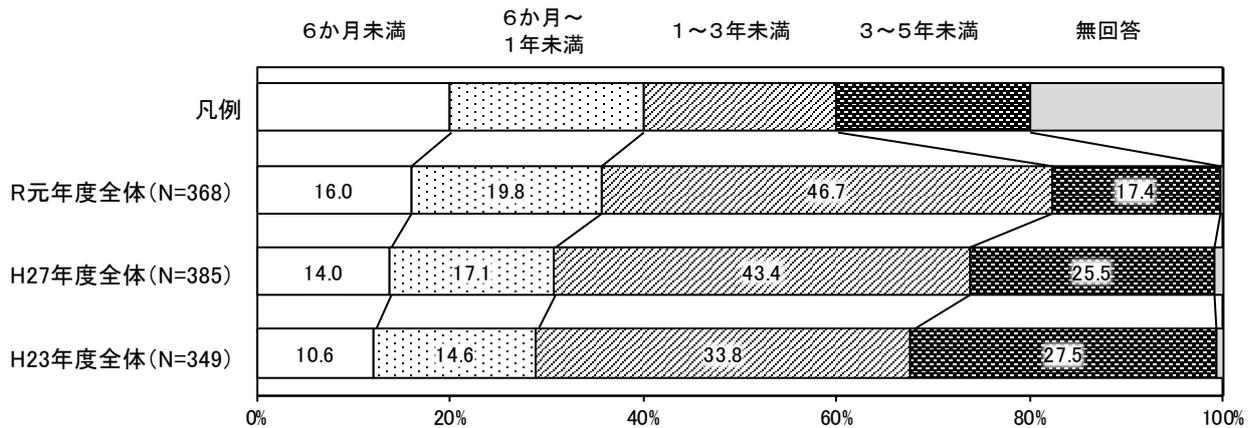


(5) 福岡市での通算居住年数【Q5】

福岡市での通算居住年数を尋ねたところ、「1～3年未満」(46.7%)が最も多く、以下、「6か月～1年未満」(19.8%)、「3～5年未満」(17.4%)、「6か月未満」(16.0%)と続いている。

【福岡市での通算居住年数（時系列）】

※過去調査との比較は参考（P1，4.⑧参照）



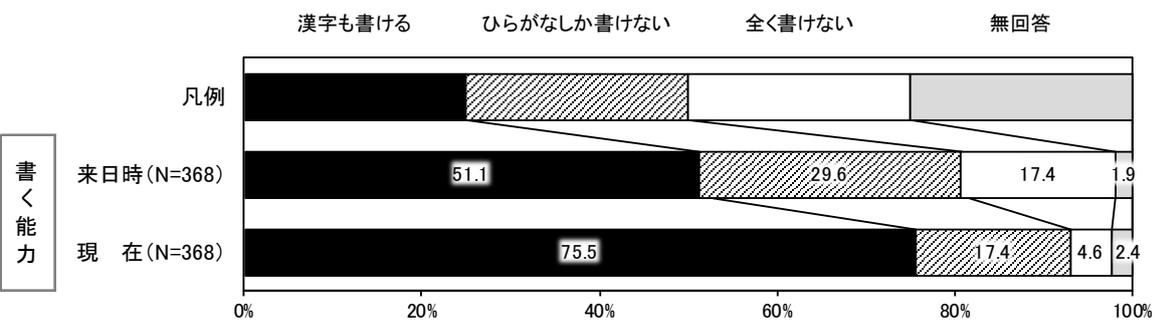
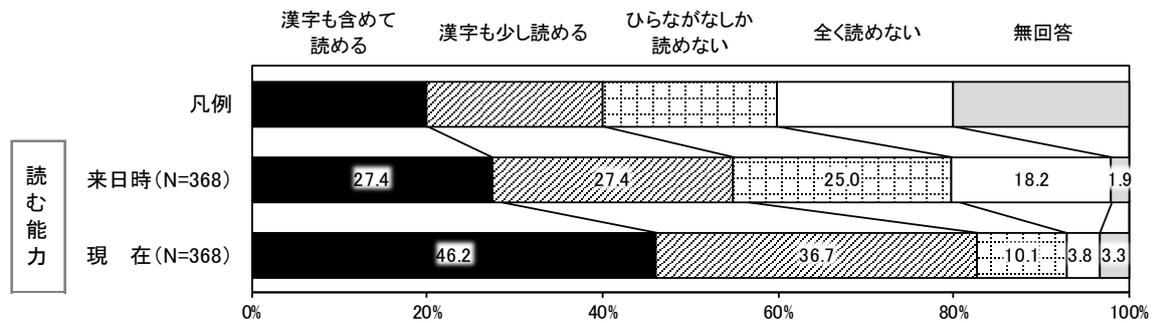
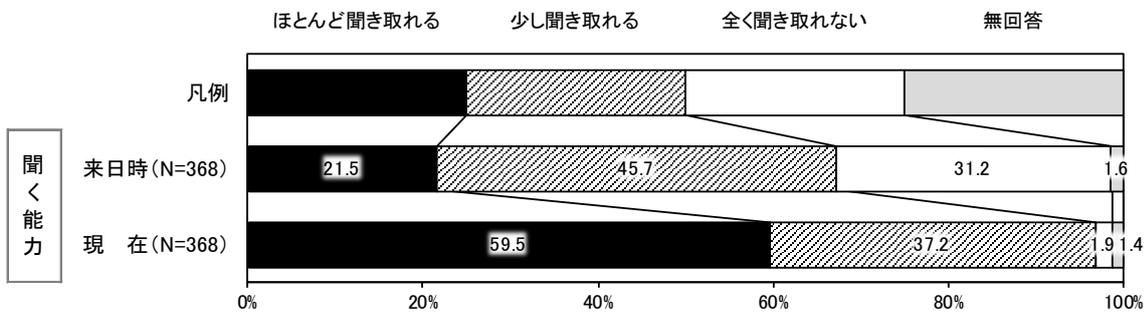
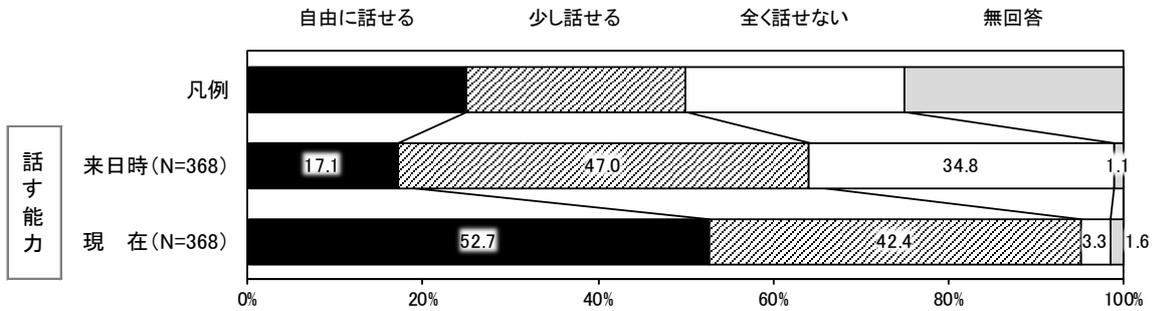
注：H23年度は「現住所滞在期間5年未満」での抽出のため、福岡市滞在5年以上者が含まれる

2. 日本語・英語能力について

(1) 日常生活における日本語能力【Q6】

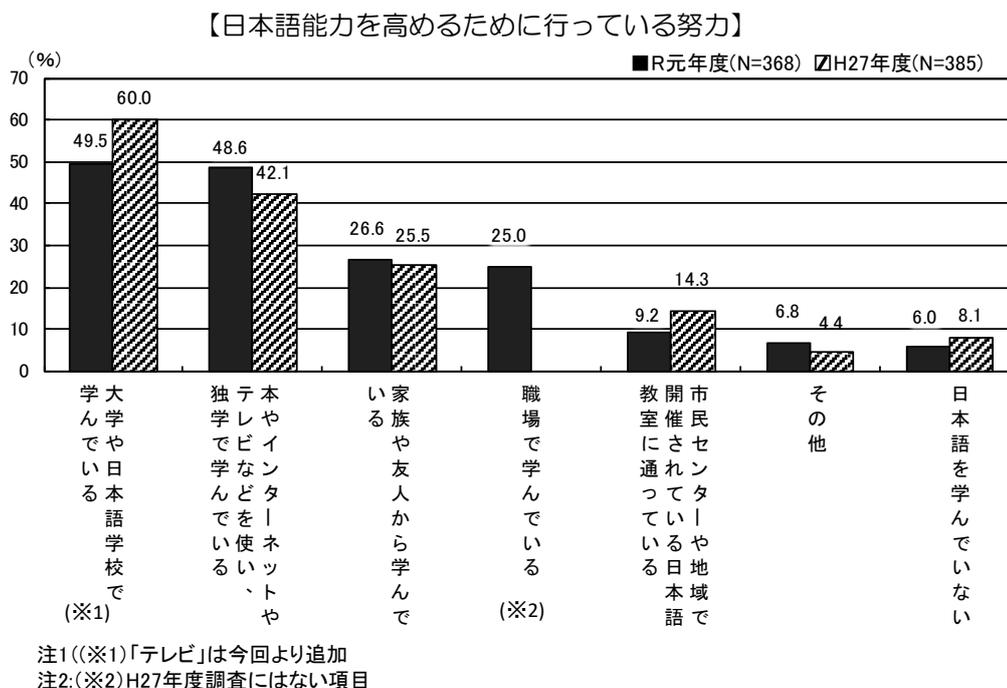
調査回答者の日本語能力は、来日時に比べ、どの能力も向上している。

【来日時と現在の日本語能力の比較】



(2) 日本語能力を高めるために行っている努力【Q7】(複数回答)

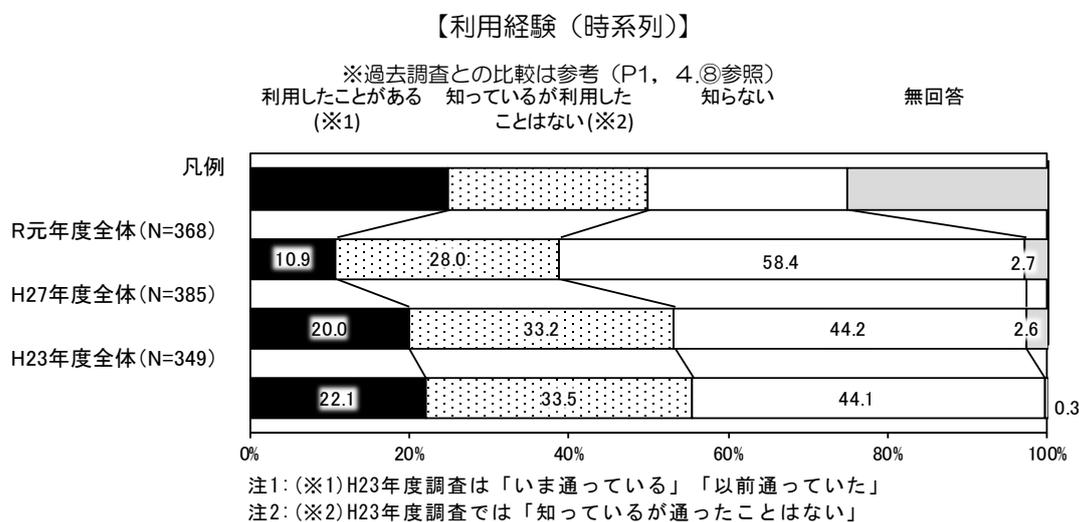
日本語の能力を高めるためにどのような努力をしているかを尋ねたところ、「大学や日本語学校で学んでいる」(49.5%)が最も多く、以下、「本やインターネットやテレビなどを使い、独学で学んでいる」(48.6%)、「家族や友人から学んでいる」(26.6%)、「職場で学んでいる」(25.0%)、「市民センターや地域で開催されている日本語教室に通っている」(9.2%)と続いており、「日本語を学んでいない」(6.0%)と回答した人は1割に満たない。



(3) 市民センターや地域で開催されている日本語教室の利用程度【Q8】【Q8-1】

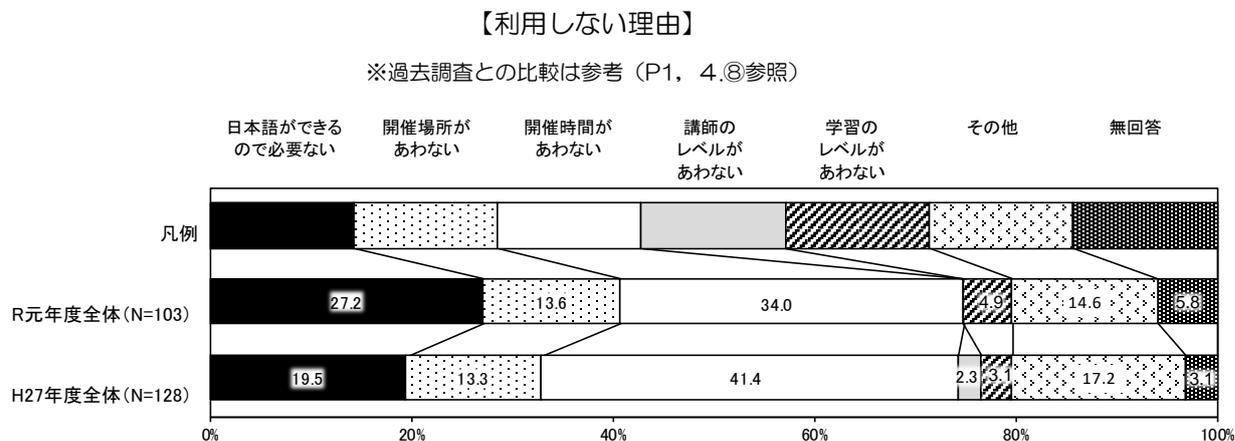
①利用経験【Q8】

市民センターや地域で開催されている日本語教室を利用したことがあるかどうか尋ねたところ、「利用したことがある」が10.9%、「知っているが利用したことはない」が28.0%、「知らない」が58.4%と、利用経験者は約1割となっている。



②利用しない理由【Q8-1】

知っているが利用したことはないと回答した人（103人）に利用しない理由を尋ねたところ、「開催時間があわない」（34.0%）が最も多く、以下、「日本語ができるので必要ない」（27.2%）、「開催場所があわない」（13.6%）と続いている。

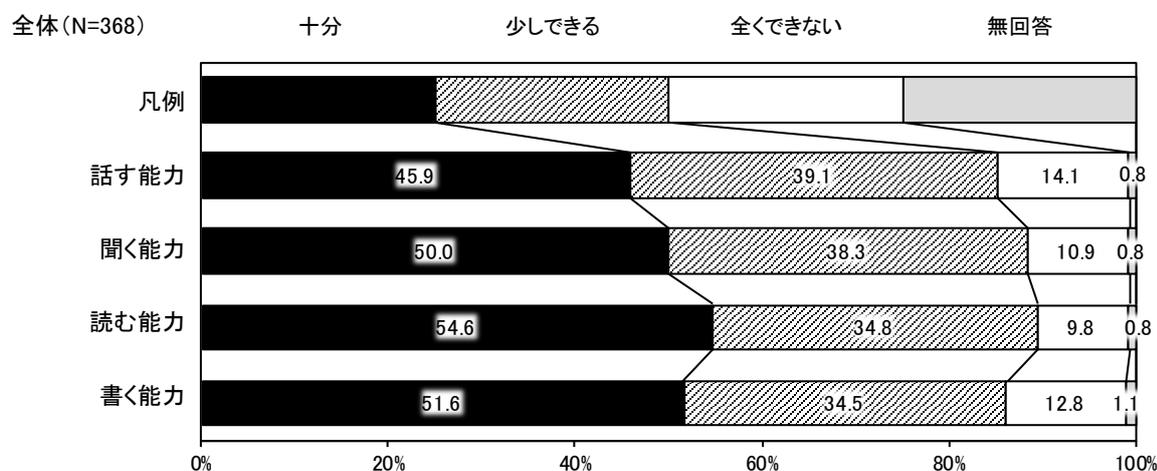


（4）日常生活における英語能力【Q9】

日常生活における英語能力（話す能力、聞く能力、読む能力、書く能力）については、

- ・話す能力は、「話せる」（45.9%）、「少し話せる」（39.1%）を合わせると 85.0%
 - ・聞く能力は、「聞き取れる」（50.0%）、「少し聞き取れる」（38.3%）を合わせると 88.3%
 - ・読む能力は、「読める」（54.6%）、「少し読める」（34.8%）を合わせると 89.4%
 - ・書く能力は、「書ける」（51.6%）、「少し書ける」（34.5%）を合わせると 86.1%
- となっており、4つの能力に大きな差はない。

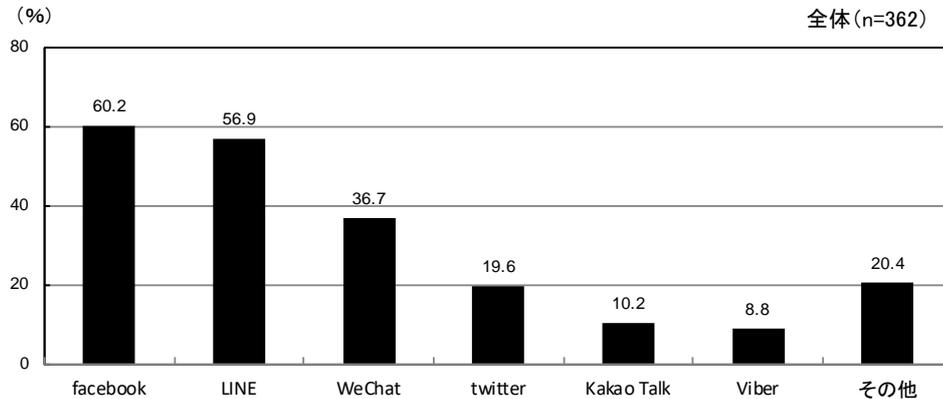
【日常生活における英語能力】



(5) 利用しているソーシャルネットワーキングサービス（SNS）【Q10】

ソーシャルネットワークサービス（SNS）を利用していると回答した方（362人）に、その媒体を尋ねたところ、「Facebook」（60.2%）が最も多く、以下、「LINE」（56.9%）、「WeChat」（36.7%）、「twitter」（19.6%）の順となっている。

【利用しているSNSの種類】

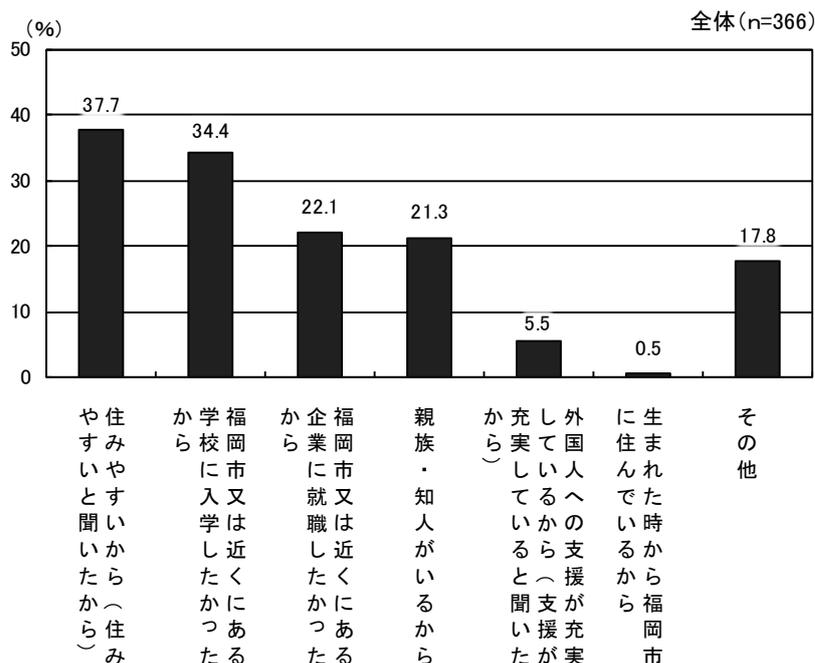


3. 福岡市に関することについて

(1) 福岡市に住むことを決めた理由【Q11】

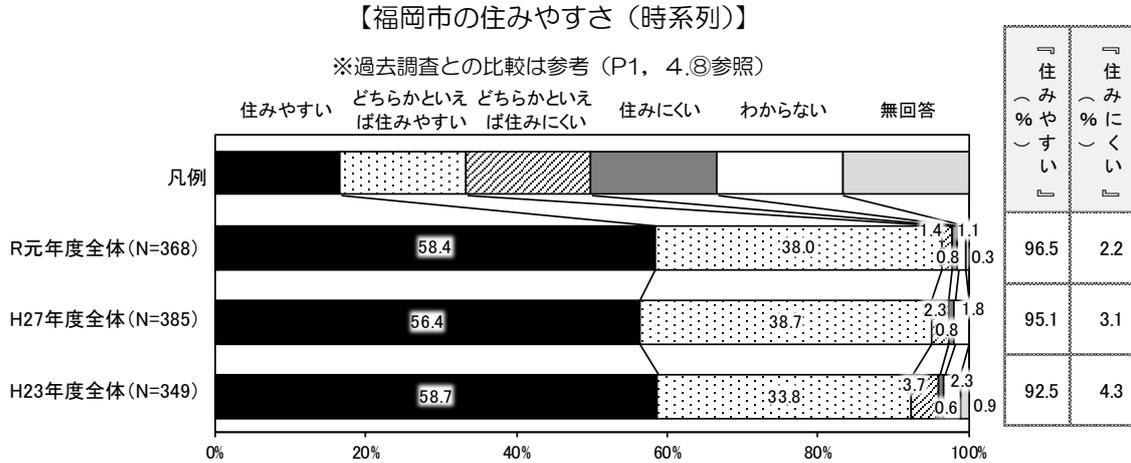
福岡市に住むことを決めた理由としては、「住みやすいから（住みやすいと聞いたから）」（37.7%）が最も多く、以下、「福岡市又は近くにある学校に入学したかったから」（34.4%）、「福岡市又は近くにある企業に就職したかったから」（22.1%）と続いている。

【福岡市に住むことを決めた理由】



(2) 福岡市の住みやすさ【Q12】

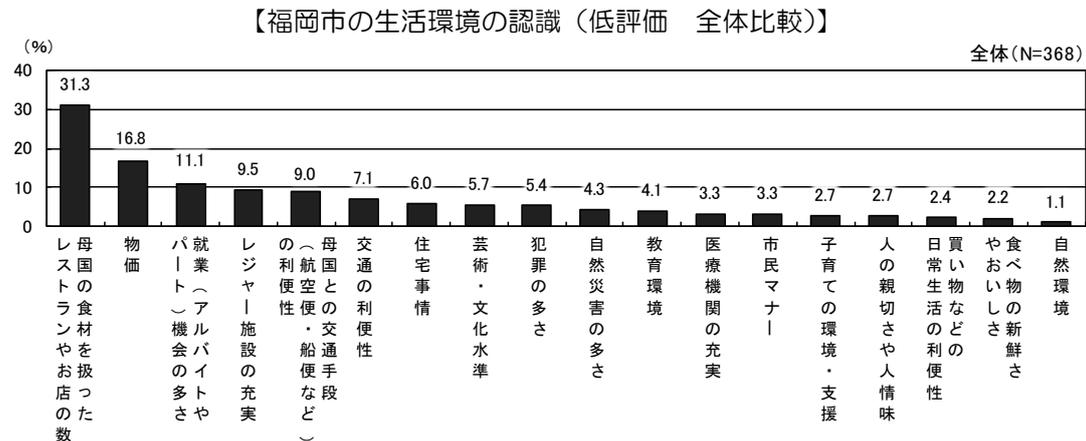
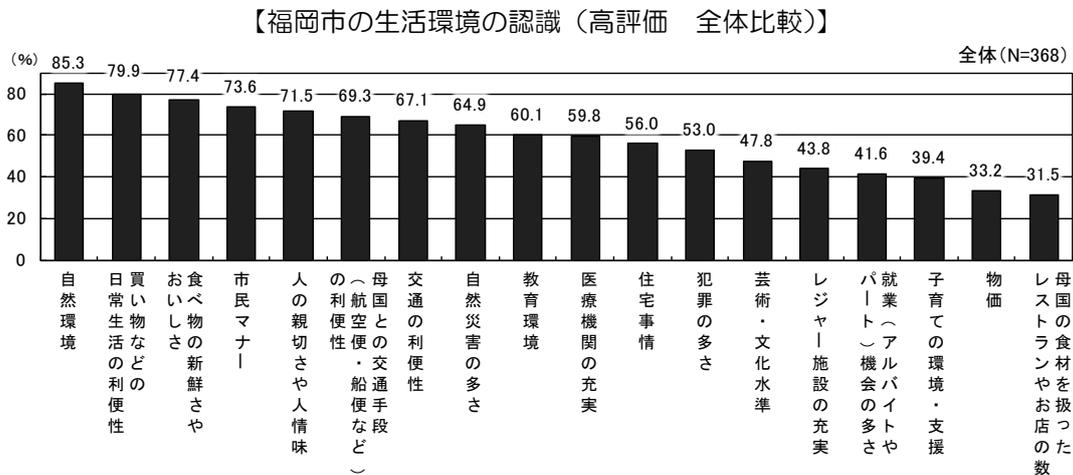
総合的にみた福岡市の住みやすさを尋ねたところ、「住みやすい」(58.4%)と「どちらかといえば住みやすい」(38.0%)を合わせ『住みやすい』と評価した人は96.5%で過去最高となっている。



(3) 福岡市の生活環境の認識【Q13】

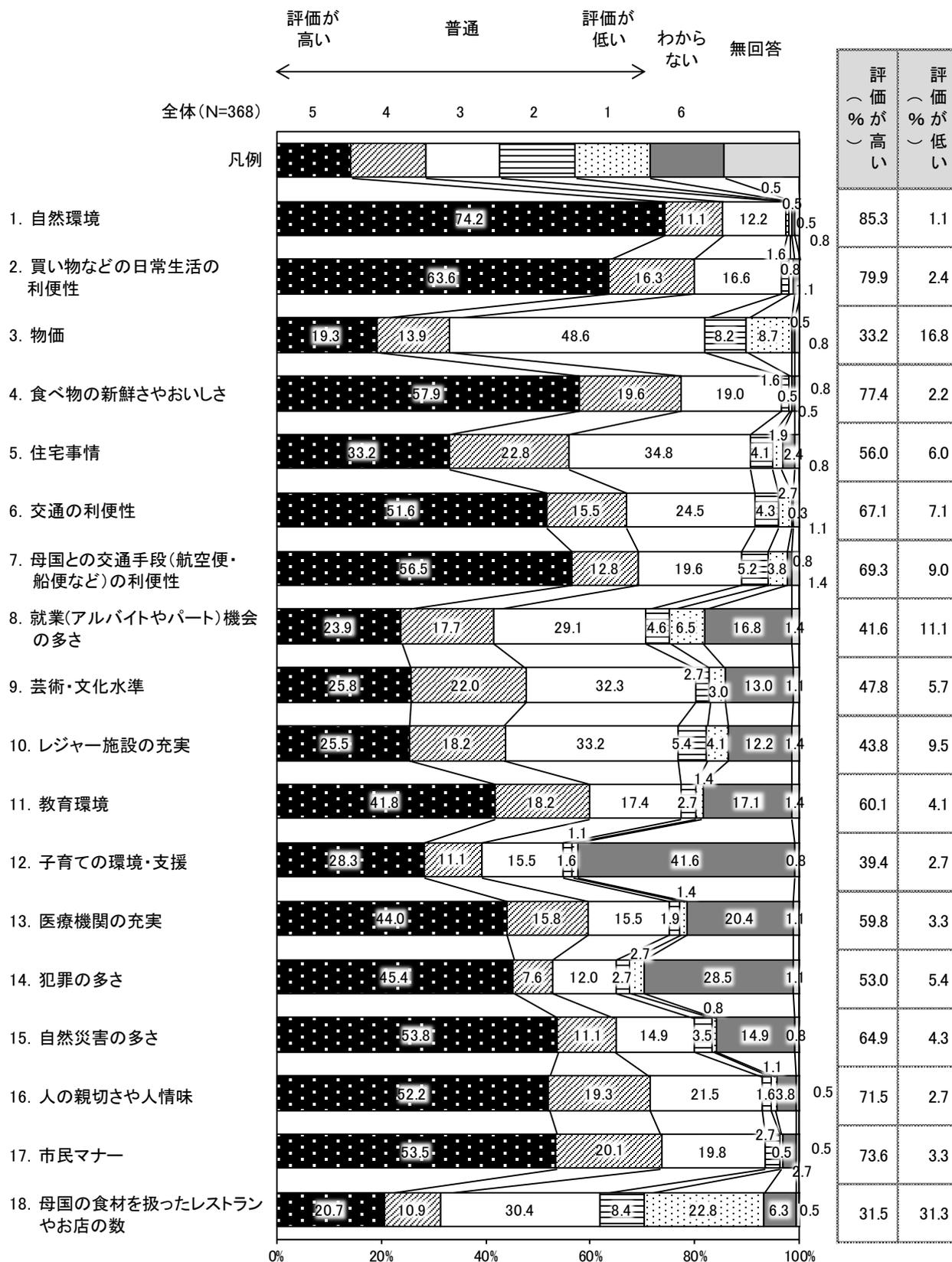
福岡市の生活環境を18項目に分けて、5段階評価を行った。

評価の高い項目としては、「自然環境」(85.3%)が最も多く、評価が低い項目としては、「母国の食材を扱ったレストランやお店の数」(31.3%)が最も多くなっている。



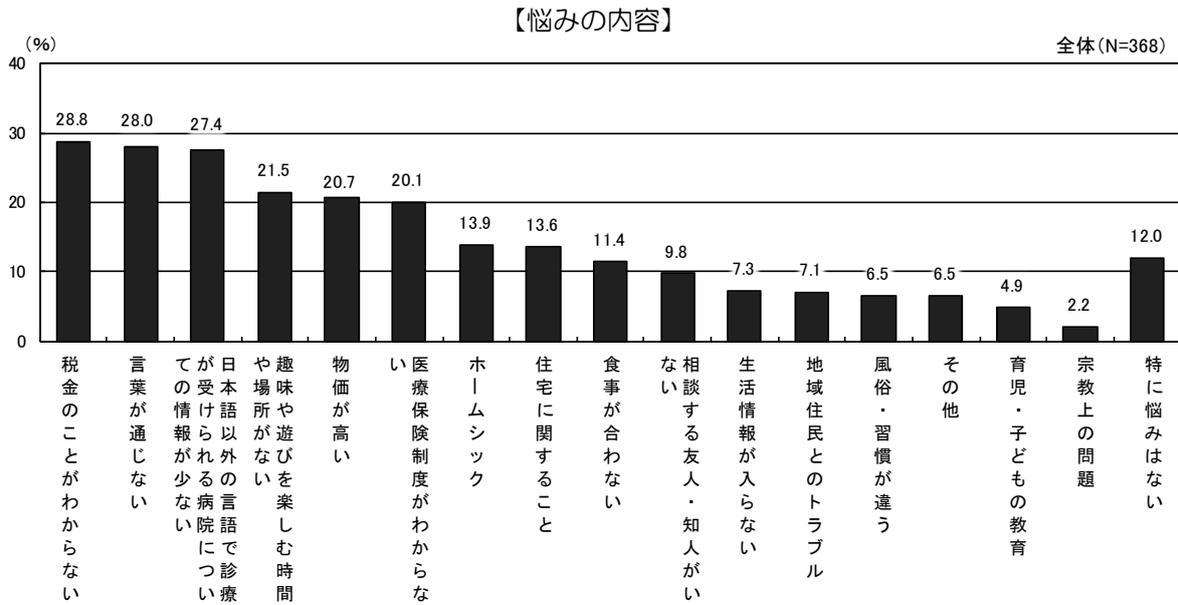
全体的な評価をみると、いずれの項目も評価が低い割合より高い割合の方が多いが、「母国の食材を扱ったレストランやお店の数」については割合が拮抗している。

【福岡市の生活環境の認識（全体比較）】



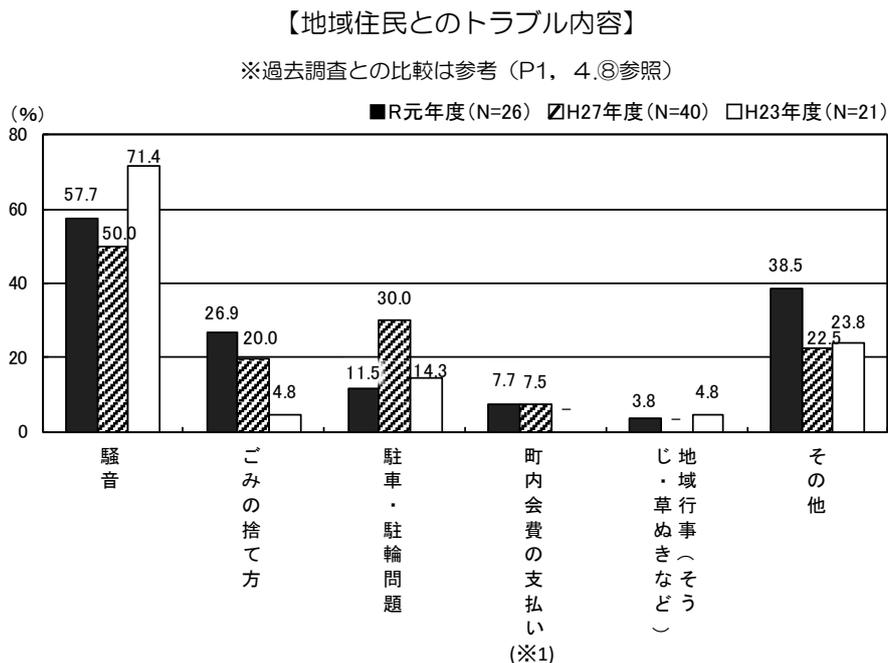
(4) 日常生活での悩み（複数回答）【Q14】

日常生活での悩みや困ることを尋ねたところ、「税金のことがわからない」(28.8%)と回答した人が最も多く、以下、「言葉が通じない」(28.0%)、「日本語以外の言語で診療が受けられる病院についての情報が少ない」(27.4%)、「趣味や遊びを楽しむ時間や場所がない」(21.5%)と続いており、言語に関わる悩みが上位にあがっている。なお、「特に悩みはない」と回答した人は23.4%となっている。



(5) 地域住民とのトラブル内容（複数回答）【Q14-1】

地域住民とのトラブルがあると回答した方にトラブル内容を尋ねたところ、「騒音」(57.7%)が最も多く、以下、「ごみの捨て方」(26.9%)、「駐車・駐輪問題」(11.5%)と続いている。

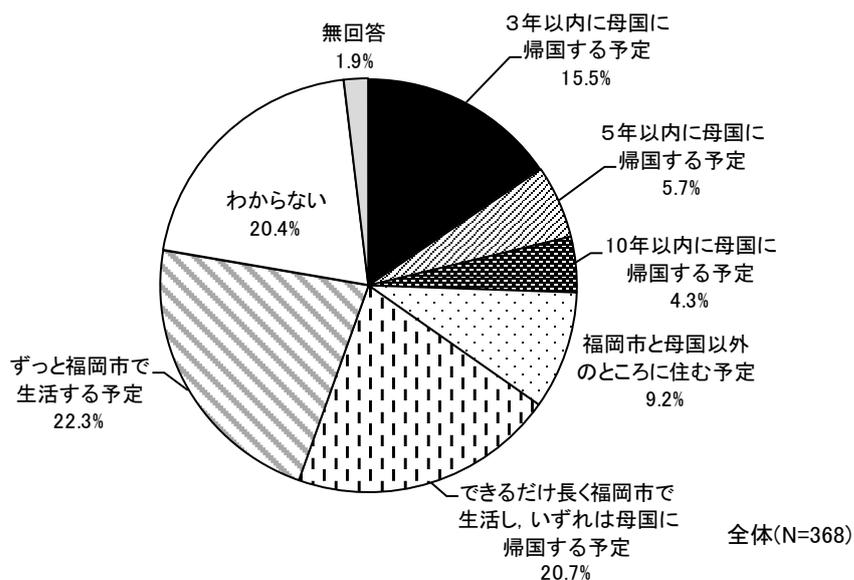


注1 (※1) H23年度調査は「自治会費・町内会費の支払い」

(6) 今後の福岡市での生活【Q15】

今後の福岡市での生活をどのように考えているか尋ねたところ、「ずっと福岡市で生活する予定」(22.3%)が最も多く、以下、「できるだけ長く福岡市で生活し、いずれは母国に帰国する予定」(20.7%)、「わからない」(20.4%)、「3年以内に母国に帰国する予定」(15.5%)、「福岡市と母国以外のところに住む予定」(9.2%)の順となっている。

【今後の福岡市での生活】



令和元年度 福岡市外国籍市民アンケート報告書
(福岡市滞在期間5年未満の外国籍市民に関する分析)

令和元年 8 月

発行 福岡市総務企画局国際部国際政策課

〒810-8620

福岡市中央区天神一丁目 8 番 1 号

TEL (092) 711-4022

FAX (092) 733-5597

E-mail kokusaiseisaku.GAPB@city.fukuoka.lg.jp